

小・中学校及び高等学校における 発達障害のある児童生徒へのさらなる指導の充実を目指して

気になる子どもの理解から その具体的な指導へ

特別支援教育を進めていく上で、その基盤となるのは児童生徒一人一人についての理解を深めることです。一人一人の児童生徒は、それぞれ異なった能力・適性、興味・関心等をもっているため、日ごろの学習や生活場面において、全教職員で客観的かつ多面的に児童生徒を見て、理解していこうとすることが重要です。

その中でも、教師から見える児童生徒の気になる姿には、その子どもにとっての様々な状況や困難さ等が背景にあると考えられます。児童生徒理解を一層深めることで、その子どもに合ったより適切な指導を行うことができます。

県教育委員会では、発達障害のある児童生徒へのさらなる指導の充実を目指して、学級経営や児童生徒の指導を行う上で先生方の参考となるよう、気になる子どもの「理解のヒント」と「具体的な指導の手立て」を示したリーフレットを作成しました。

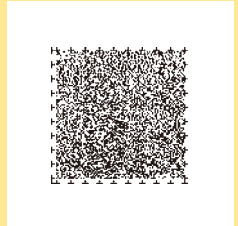
実際の指導の際には、日ごろから「安心できる学級」と「分かる授業」の充実を図りながら、児童生徒の発達の段階を考慮し、「具体的な指導の手立て」を例として実態に応じた指導の工夫に努めることが大切です。



日ごろより手元に置いて、対応に困ったときや事例検討の際に活用してください。構成は以下のとおりです。

気になる子どもの姿

- > **<例1>** →P2へ
【学習面】 授業中、学習意欲が感じられない…ように見える。
- > **<例2>** →P3へ
【学習面】 唐突な発言や離席がある等、落ち着きがない…ように見える。
- > **<例3>** →P4へ
【生活面】 集団行動をとるのが難しい…ことがある。
- > **<例4>** →P4へ
【生活面】 思い通りにならないと、物や人にあたってしまう…ことがある。
- > **<例5>** →P5へ
【生活面】 周りの状況や友達の気持ちを考えずに、思ったことを言動に表してしまう…ことがある。



「個別の指導計画」の活用

支援の必要性が高い児童生徒に対しては、必要に応じて「個別の指導計画」を作成し、その子どもに合ったきめ細かな指導を日々重ねていきましょう。



【個別の指導計画の作成例】<中学校1年 Aさん>

気になる子どもの姿
【学習面】 授業中、学習活動に関係なく離席することがある。
Aさんの場合、考えられることは…

- ・今、何をやっているのか、分からないのかも。
- ・1時間の授業の見通しがもちにくいのかも。
- ・周りの音や物が気になるのかも。
- ・集中できる時間が短いのかも。
- ・興味・関心により行動が大きく異なるのかも。

個別の指導計画の作成のポイント!!

- つまずきの中でも、うまくいっているところを生かしているかな?!
- 2か月程度で達成可能な目標を、一つ二つに絞っているかな?!
- 明日からでもできる、具体的な指導の手立てになっているかな?!

	実 態	指導目標	指導場面	指導の手立て	評 価
学 習 面	【うまくいっているところ】 ○社会科が得意で、特に歴史に関心が高い。 積極的に発言することができる。	○毎時間1回は発言することができる。	○毎時間 教室 教科担任	○各教科担任全員が授業のはじめに、学習の見通しをもたせるために、本時のめあて等を板書し全員に確認後、個別に伝える。 ・本生徒の意見を取り上げて、意図的に指名し、発言の場を設定する。 ・本生徒の発言をその都度ほめる。 ・座席を教卓の斜め前にする。	→離席の回数が減った。他教科の授業においても集中して取り組む時間が長くなった。
	【つまづいているところ】 ・授業中、ときどき離席することがある。				
生 活 面	【うまくいっているところ】 ○サッカーが好きで、サッカー部での活動を楽しみにしている。	○部活動に休まず参加することができる。	○部活動の時間 校庭 部活動顧問担任	○出席記録係を設定し、毎日出欠を付ける役割分担を与える。 ・毎日記録の確認をして、ほめる。その取組を担当に伝える。 ・担任は、本生徒の部活動への取組について、日ごろからさりげなくほめる。	→部活動顧問や担任が連携して、本生徒ががんばりを認めてきたことにより、部活動に休まず参加することができた。
	【つまづいているところ】 ・友達とかかわろうとしているが、なかなかなじめず、集団での行動では気後れしてしまうことがある。				

個別の指導計画を活用した指導実践のポイント

- *教職員の共通理解のもと、全校体制で指導に取り組みましょう。
- *定期的に指導の評価を行い、さらなる指導の改善(PDCA)につなげましょう。
- *保護者との連携を図り、子どもの成長を確認し合いましょう。



栃木県教育委員会事務局特別支援教育室
 〒320-8501 宇都宮市埴田1丁目1-20
 TEL 028-623-3381
 URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>
 発行 平成24年3月

作成協力者
 さくら市立喜連川小学校 鈴木 左夕教諭
 益子町立益子中学校 風山知真里教諭
 県立岡本特別支援学校 葛西久美子教諭

②人とのコミュニケーションが苦手なため、言いたいことが伝えられずにいるのかも。	→自分の思いや伝えなかったこと、友達と何がしたかったのか等、言葉で表現できるよう時間をとり、本人の話を最後までよく聴く。 →状況に応じた適切な言動がとれるよう、望ましい言葉(モデル)を具体的に示し、教える。できたらほめる。 →安心して自分を表現できるように、日ごろより本人の話をよく聴く。また、学級で発表する機会を意図的に設定し、日ごろから友達に思いを伝える練習ができるようにする。
③自分の気持ちをコントロールするのが苦手なのかも。	→まずは、その場から移動する等して、本人が落ち着くのを待つ。 →落ち着いた後に、何があったのかを確認し、その場を離れる等自ら落ち着く方法がとれるよう話し合う機会をとる。その後、自分で落ち着く方法がとれたら、ほめる。
④ストレスがたまっているのかも。	→日ごろより、安心できる学級づくりに努める。 →日ごろより、適宜声をかけ、本人の話を聴くようにする。 →体を動かすことや音楽を聴くこと等、本人に合ったストレスの発散法を考えさせ、自分に合った望ましい発散ができたなら認める。



<例5>
【生活面】 周りの状況や友達の気持ちを考えずに、思ったことを言動に表してしまう…ことがある。

理解のヒント	具体的な指導の手立て<例>
①自分の言動への認識が弱いのかも。	→大声で叱責せず、本人の分かる言葉で正面から個別に話す。 →言動の善し悪しを○や×で示す等、視覚的に伝える。 →本人の言動を振り返らせ、周りの状況や友達の具体的な態度から、友達がどんな気持ちでいるかを伝える。
②状況判断や相手の立場を理解するのが苦手なのかも。	→<例3>③参照
③人とのコミュニケーションが苦手なため、言いたいことが伝えられずにいるのかも。	→<例4>②参照
④落ち着かず不安な気持ちがあるのかも。	→本人が安心できるように、教室や特別教室、座席の配置等、落ち着いた環境を整備する。 →日ごろより、適宜声をかけて、必要に応じ個別に話を聴く。



気になる子どもの理解とその具体的な指導の手立ての例

気になる子どもの姿について、考えられる様々な背景を「理解のヒント」として、「具体的な指導の手立て」を考えて、その子どもに合った適切な指導を行いましょう。

<例1>

【学習面】
授業中、学習意欲が感じられない…ように見える。



理解のヒント	具体的な指導の手立て<例>
①1日の授業の見通しが分からないため、意欲がわからないのかも。	→朝の会で、1日の 日程を全員に 説明した後、 個別に ホワイトボードや日程メモ等を活用して 1日の流れを伝える 。
②本時の学習活動が分からないのかも。	→毎時間、本時の 学習のめあてや学習内容等を板書 する。
③活動の流れや何をどこまでやればいいのか分からないのかも。	→活動を始める前に、絵や写真、具体物等を用い、 視覚的に活動内容を説明 する。 →活動前に、タイマー等を利用し、予め 活動終了の時間を伝えておく 。
④教師の話聞きもらしているのかも。	→指示の前に、 正しい姿勢や視線 が教師に向いていることを確認する。 →日ごろより、聞き方についてのモデル(正しい姿勢等)の掲示物を示す等、 こまめに学級全体で確認 をする。
⑤たくさんの情報が入ると分らなくなるのかも。	→授業に 使う物だけを机上に出す よう指示をする。 →指示は、 全員に対して短く1つずつ 伝えるようにし、その後、 個別に、短くはっきりと伝える 。
⑥書くことが苦手なのかも。	→書きやすいように、文字のマス目や罫線の幅を調整する等、 用紙を工夫 する。 →字数や行数等の 書く分量を調整 する。 →板書する際には、 文字の大きさや色を工夫 する。 → 見本等を用意 し、ノートのすぐ横において視写できるようにする。 → 書く時間を適宜確保 する。
⑦考え等を文章にまとめることが苦手なのかも。	→文章を書く前に、「いつ、どこで、だれが、何をして、どう思ったのか」等の アウトラインのメモを作る ように伝える。 →具体的なイメージが湧くように、 絵や写真及び具体物を示す 。

⑧時間内に課題を終えるのは難しいのであきらめているのかも。	→課題の 分量や難易度を調整 する。 →課題解決の手がかりとなる ヒントカード 等を渡す。
⑨学習活動や自分の回答に対して自信がなく不安なのかも。	→机間指導の際には、 本人なりのがんばりに目を向け 、認める。 →自信を育てるために、 できる内容や得意な活動 を取り入れる。
⑩学習が分からず、授業についていけないのかも。	→できるところや好きな学習内容、得意な教科に注目し、 活躍の場をつくり 、本人の意欲的な取組を認める。 →放課後等の時間に、 個別に学習の補充 を行う。

<例2>

【学習面】
唐突な発言や離席がある等、落ち着きがない…ように見える。



理解のヒント	具体的な指導の手立て<例>
①本時の学習活動が分からないのかも。	→<例1>②参照
②活動の流れや何をどこまでやればいいのか分からないのかも。	→<例1>③参照
③教師の話聞きもらしているのかも。	→<例1>④参照
④集中できる時間が短いのかも。	→活動を取り入れた 授業展開や指導形態の工夫 をする。 →活動の時間や内容等、 活動を短く区切る 。
⑤いろいろなことに興味関心が高いのかも。	→今、学習している箇所に 注目できるように 、指差しや付箋紙の貼付等を行う。 →活動内容等の順序が分かるメモを渡し、随時今行っている 学習活動の確認 ができるようにする。
⑥外部からの情報に対して、敏感すぎるのかも。	→多くの情報が視覚に入らないように、前面黒板や壁面及び机の周辺の不要な物を整理する等 環境の整備 をする。 →外部からの刺激を少なくするために、 カーテンの利用や座席の配置を工夫 する。
⑦できない時、どうしたらよいか分からないのかも。	→分からない時は、拳手やサインをする等、 本人ができる学習のルール を決めておく。 →日ごろの教師の観察により、本人のつまづいている時の表情やくせを把握しておき、その 状況をとらえて声をかける 。

⑧学習の遅れを不安に感じ、感情がコントロールできなくなっているのかも。	→できそうな問題から挑戦できるよう、 課題の分量や難易度の調整 をする。本人なりの 落ち着いた取組を認める 。 →落ち着いている時に、授業中つらくなったら教師に言葉やサインで伝えてから保健室に行く等、 落ち着く方法を確認 し約束しておく。約束が守れた時は、その都度ほめる。 →日頃の授業の様子に留意し、 安心できる座席の配置やグループ編成 、本人が分かるような 具体的な説明や指示等を工夫 する。
-------------------------------------	---

<例3>

【生活面】
集団行動をとるのが難しい…ことがある。



理解のヒント	具体的な指導の手立て<例>
①活動内容や流れが分からないのかも。	→<例1>③参照 →正面から本人の顔を見て、 個別に指示 をする。 指示は短く、はっきりと伝える 。
②集団(遊び等)のルールが分からないのかも。	→集団(遊び等)におけるルールを作る際には、 学級全員に分かりやすい内容 にする。 →日ごろより、勝敗等の結果だけでなく、活動に取り組む過程が大切であることを伝え、 その取組の姿勢を認める 。
③状況判断や相手の立場を理解するのが苦手なのかも。	→集団における自分の言動がどうであったか等を客観的に伝え、 望ましい行動(モデル)を具体的に示し、繰り返し練習 する。実際の場面できたら、 その場でほめる 。
④人とのコミュニケーションが苦手なのかも。	→困った時や分からない時は、先生や友達に聞いたり、 援助を求めたりする等の具体的な方法 を教える。

<例4>

【生活面】
思い通りにならないと、物や人にあたってしまう…ことがある。



理解のヒント	具体的な指導の手立て<例>
①今まで自分の思い通りになっていたのかも。	→危険なことや他人を傷つけること等は、 許されないことを毅然と伝える 。 →自分の言動を見つめ直すために、相手から同じ事をされたらどうか、自分の体験や絵等を用いて 具体的に振り返 らせる。そして、 今後どうすればよいか を考えさせる。